

中から意識することが必要であること、例えば、1時間テレビをつけるよりもシャワーを1分間出す方が排出量が大きいことや、白熱電球の使用を控えることなど、すぐに実践できる事柄についてアドバイスされた。

また、政府が積極的に取り組んでいる「トップランナー基準」や、市民団体が始めた省エネ評価や電気料金の目安をわかりやすく表示した「省エネラベル」、講師自身の活動として、夏至の夜に電気を消してスローな夜を過ごすという「さっぽろキャンドルナイト」なども紹介された。

## グループディスカッション&発表

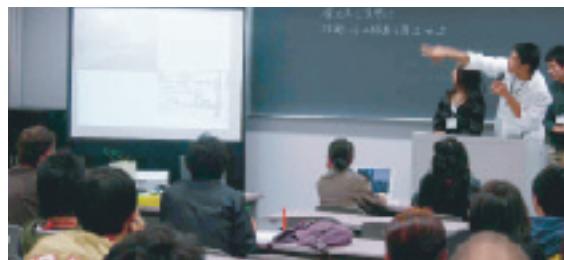
基調講演の後、参加者は約2時間にわたってタウンウォッチングのまとめを行い、テーマに基づいた感想や改善案などについて話し合った。各グループとも朝早くから行動を共にしていることもあって、お互いにリラックスしながら積極的に意見を交わし、どのグループも時間いっぱいになんでも話が尽きないほどであった。成果発表はタウンウォッチングで撮った写真を使いながら、「街中に自動販売機が多くあふれているのは無駄」(省エネ)、「ユニバーサルデザインの専門家や市民の意見を取り入れたまちづくりを」(まちづくり)、「地下歩行空間の有効利用として駐輪場としてはどうか」(交通)、「環境とコスト(企業利益)のバランスが課題」(食)、「ゴミの分別や駐輪禁止マークの上に堂々と自転車が置いてあるなどまだ市民意識の改革が必要」(環境教育)など、多様な意見が出され、会場からは共感の大きな拍手が沸き起こるなど盛り上がりを見せた。



タウンウォッチングの成果を皆で発表し議論した



タウンウォッチングの成果をもとに活発なディスカッション



意見を発表する参加者

## 独立行政法人 日本学生支援機構

日本学生支援機構は、日本育英会が実施してきた日本人学生への奨学金貸与事業と留学生関係公益法人4団体である日本国際教育協会、内外学生センター、国際学友会、関西国際学友会が実施してきた留学生交流事業及び国が実施してきた留学生に対する奨学金の給付事業や学生生活調査等の事業を整理・統合して文部科学省所管の独立行政法人として、平成16年4月1日に設立されました。

北海道支部では、留学生支援事業として従前は、帰国して母国等で就職する場合が一般的でしたが、近年は日本での就職を希望する留学生が増加していることで昨年から、企業の人事担当者から採用ポイントや元留学生の就職活動体験談、マナー講習会の「外国人留学生のための就職支援セミナー」を開催しています。また本年は、外国人留学生と日本人学生との交流事業として「多文化共生時代の中での『環境問題』とまちづくり」と題して日常生活において利用する公共施設等をインタークリーを介してのタウンウォッチングやグループディスカッション等を行い、次代を担う「若者」が環境への負荷の少ない持続可能な社会の構築に向けた知的交流プログラムを実施しています。また、留学生がメンタル的ストレスを受け留学生活に支障をきたすことに対応するために大学等の教職員を対象に「外国人留学生のためのメンタルヘルスマネジメント」を開催して精神的負荷の軽減、負荷軽減システムの構築等についての意見交換やネットワークの整備充実を図っています。

学生生活支援事業では、過去2年間インターンシップセミナーを開催してコオプ教育(社会連携キャリア教育)の事例報告を行ってきましたが、本年よりは障がい者の学習意欲の高まりにより大学等の進学が進むものと予想されることから、障がい学生を取り巻く大学等教職員さらには支援学生を含めた情報提供と、支援体制の整備・充実を図るために「障がい学生支援セミナー・ノートテイカー養成講座」を開催します。

他には札幌市との合算である札幌国際交流会館の管理運営や、奨学金の返還金の延滞処理を行っています。

### 独立行政法人 日本学生支援機構北海道支部

〒062-0906 札幌市豊平区豊平6条6丁目5-35 電話 011(817) 3611

(次ページにつづく)